

プロの世界が憧れ

—ご自身の最近の調子はいかがですか。

そうですね、良くも悪くもないって感じですね。ケガは完全に痛みは引かないんですけど、そうも言っていないのがこういうプロの世界なんです。出来る範囲の痛みなんでも普通に練習してます。

—プロ一年目を振り返ってみて、Jリーグ初出場（2003年1stステージ開幕戦）の印象はどんなものでしたか。

その前にアジアチャンピオンズリーグで一応デビューはしてたんですけど、日本のJリーグで開幕戦に出場できたことは自分自身すごく大きかったと思います。対戦相手が浦和レッズだったってこともあって、すごく楽しかったです。早くピッチに立ちたいっていう気持ちでベンチに居たんですけど、残り何分だったかおぼえてないですけど出場することができて、チームも勝ったし、いい経験が出来ました。—大勢のサポーターの前でプレーしてみてもいいかな。

大学サッカーとはもちろん規模っていう面でも違うし（これまで（観客が）入るのも浦和レッズじゃなかったらっていうのがあったんで、すごく楽しめましたね。

—プロと大学との違いはどんなところですか。

大学サッカーとか高校サッカーに比べたら違いはありますけど、技術が高いのももちろんであって、それに状況判断であったりスピードであったり。ゲームの流れを考えながら今どういうプレーが必要かってときにコントロールできる。それを事前に感じて実行できる。そういう部分ではやっぱりレベルが高いなと思っていました。

—学ぶこともたくさんありますね。たくさんありますね。やっぱり環境が違うっていうのもありますけど、いろいろな部分で。

—初ゴール（2003年2ndステージ第2節）の感想を聞かせてください。

自分の予想ではもともと早い段階で点とれるかなっていうのはあったんでだいぶ遅くなってしまったというか、シーズンも終盤だったんで、自分としてもそれまではすごい苦しかったですし、その試合は2-2の引き分けで勝てなかった試合なんでももちろんゴールしたことは嬉しかったんですけど、チームが引き分けたことに対して評価できる試合ではなかったですね。

—初ゴールまでに「早く決めなくちゃ」という焦りはありましたか。

もちろんありましたね。やっぱりサポーターの人たちも毎日あれだけの人数が練習見に来るし、話をするときも「早くゴール見たい」といったことを言われるし、徐々に点取れない試合が続くと気持ちの面での焦りっていうのがありましたね。—一年目で一番印象に残った試合はどの試合ですか。

ナビスコカップの決勝で浦和レッズに4-0で負けたゲームが一番おぼえていますね。あわよくば優勝できるんじゃないかっていう部分もあったんで、あそこまでやられると思ってなかったし、悔しいっていう面で印象に残っています。あの試合は特別でした。去年はリーグで結果を出せなかった。それでいてトナメントのナビスコでケガ人がいたり出場停止の選手がいるなか、苦しみながら決勝まで行けて、それでああいいう形で終わったので残ってるんだと思うんですけどね。

—一年目では自分のプレースタイルを出し切れないみたいなものはありましたか。

今もそういう部分はあると思います。

鹿島アントラーズ・FW

深井正樹

大学サッカー界ナンバー1ストライカー深井正樹は2003年、さらなる飛躍の場所を求め、J1鹿島アントラーズに入団した。駒大を卒業してから2年。今でも彼を支えているのは駒大サッカーで学んだ苦しいときも頑張れる気持ちだ。プロ入り2年目。ますます輝きを増していく彼のFORZA駒大独占インタビュー!!

